

～異業種から新規就農し、経営発展に果敢にチャレンジ！～

名	称： ^{たこじま} 蛸島 ^{こうじ} 幸司
事業名（年度）	：経営体育成交付金（新規就農者補助事業）（平成22年度）
事業実施主体名称	： ^{みやざきちゅうおうちいさ} 宮崎中央地域担い手育成総合支援協議会（宮崎県宮崎市）
内 容	：A Pハウス2号改良型（2,016㎡）
事 業 費	：5,546千円（国費：2,773千円）

1 事業取組前の状況

（1）経営規模（平成21年→現在（平成25年））

- ア 施設きゅうり （ 0 a → 32 a ）
- イ 水稲 （ 0 a → 10 a ）

（2）経緯等

- ・ 学生時代からの「農業に携わりたい」との気持ちを胸に秘めつつ、建設業（とび職）や製造業（電子部品）に携わっていたが、派遣切りを経験し、友人から「農業は、後継者でなければ継続させることは無理」との指摘を乗り越え、地元宮崎市で就農した。

- ・ 就農前は、^{ちゅうおう}ジェイエイファームみやざき中央（宮崎市）での1年間の研修で、きゅうりを始めとした農業生産の基礎を学び、就農時の作物は、以前、親戚の農作業を手伝った経験を踏まえ「きゅうり」を選択した。



△ 蛸島 幸司 氏
既に後輩（新規就農希望者）の良き相談役として活躍

2 取組の概要

- ・ 農業は、就農前の研修中に、就農時の農地の確保も含め、就農後の農業経営について「ある程度の見通し」を立てることが重要となる。
- ・ ジェイエイファームみやざき中央での研修中に、県や市の担当者の協力のもと、就農計画を作成するとともに、各種勉強会にも参加しつつ、就農地（農地・施設）を探し歩いた。
- ・ また、新規就農者は、就農時の投資が一時期に集中し、かつ、多額の支出を伴う（農業は、値段が高い機械や施設を購入しなければならないため、就農する際、手元に資金が残らない。）。
- ・ 結果、居住する隣の集落に、離農で5年間程度放置された土地が見つかり取得した。ハウスは中古資材を活用したので新品ハウスの半分の経費で取得でき、初期投資の軽減に繋がった。

▽ 新品の半分の経費で建設されたハウス



3 経営改善の効果

- ・ ハウスの導入で、10月頃に定植し、11月～翌年6月までの長期収穫が可能となり、収穫量は、多い時期で200kg/1,000㎡/日にのぼる。
- ・ 所得を向上させるため、宮崎では、より早く定植し、価格が高い時期に収穫・出荷する必要がある。そのためには、台風対策として、施設（ハウス）の導入が必要である。



△収穫末期(6月末頃)のハウス内部(次期の作付け準備が始まる)

4 成功の要因

- ・ 「農業は、自分のがんばり次第で、結果がそのまま跳ね返ってくるもの」と考えており、農業に対する先入観が小さく、強い気持ちを持っている。
- ・ 異業種を経験して就農した者は、「農業で失敗できない」という危機意識も高く、「農業をがんばろう、儲かろう」と思う気持ちがより強いのではないかと。また、新規就農者は、「農業で生活する。勝負する。」という気持ちが大きい(自身(蛸島氏)は、農地を自分の「足」で探し、交渉し、確保した。)
- ・ この「がんばり」の結果として、年間の1,000㎡当たりの収量は、JA構成員平均で16tのところ、経験は少ないものの22tにもなり、JA管内のトップとなった。このような実績もあり、来年新設する施設の融資を円滑に受けることができたのではないかと。

5 今後の経営改善の方向

- ・ 今後は、販売について業者との直接契約に取り組みたい。そのためには業者が求める「定時・定量」を実現できる出荷体制を整えなければならない。現在、新規就農者等のグループで法人化に向けた勉強会をスタートさせた。
- ・ また、これまでの生産方法に加えて、経営に幅を持たせるため「減農薬栽培」などにも挑戦したい。



△ 蛸島氏のハウスが建つ宮崎市近郊の水田地帯(数多くの新規希望者が就農を目指している)